

くろ
野

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩 心 会 発 行

3年9月現在会員数
逗子地区 174名
葉山地区 247名
大船地区 49名
(合計) 470名

3年9月号(230号)
発行 者 根岸 岳 萃
編 集 者 中村 愛 岳

十月の行事予定

(第一〇〇回全国吟道大会)

とき・平成3年10月13日(日)

ところ・新高輪プリンスホテル(飛天の間)

碩心会から左記の方が参加します。

根岸岳萃 加藤岳相 沼田岳雷 小峯岳海

加藤圭岳 中村幸岳 千葉劔岳 中村愛岳

立沢御岳 松井正風 村井知風

(出吟・祝賀会参加)

竹石憲岳 鈴木孝岳 森田暁岳 岩崎恵岳

山口夕岳 (出吟のみ)

(県本部吟行会)

とき・10月21日(月)〜10月24日(木)

コース・北海道道東方面

準備委員決まる

碩心会五十五周年大会の準備委員が左記の通り選出されました。

委員長 根岸 岳 萃

副委員長 加藤 岳 相

(総括)

○加藤圭岳△宇都宮徳風△荒木笙岳

立沢御岳

(会場係)

○竹石憲岳△松野宝岳△上村象岳△松井正風

一柳道岳 小形雄風 加藤健風 吉原慎風

(プロ企画・編集係)

○中村幸岳○千葉劔岳○村田滯岳△清水耀岳

白井寿岳 金子訓風 菊池祐風 鈴木英風

(招待係)

○中村愛岳△山口夕岳△佐久間爽岳

佐藤湧岳 石渡桂岳 白井麗岳 千葉美風

(記念品・弁当係)

○鈴木孝岳○鈴木萃岳△杉山雪岳△綾部秋岳

守谷崇岳 伊藤峰岳 渡辺秀岳 石川豊岳

関水滄岳

(懇親会係)

○木村松岳○沼田義岳△岩崎恵岳△三留岑岳

笠原珠岳 綱川晃岳 加藤溪岳

(会計係)

○矢嶋悦岳△西村昌岳△高井定風

(○印(正) △印(副))

詩吟と私と健康との因縁に憶う

相談役 三井岳彌

今、私は詩吟の道を通じて最後の人生を歩いています。大切な紙面を私事で恐縮とは思いますが、日本海軍、米海軍基地勤務、そして第三の人生吟道とは、なるべくしてなつたとつくづく思います。

八十歳になつた祖母の面倒を見るために、父を大分に残して母が私達子供四人を連れて萩に転居したのは、私が小学校三年生の時でした。母はその時私に、漢文を習うようすすめ、古武士の面影のある漢学者、山縣先生の門に入門させられました。先生が亡くなられるまで約二年余、大声で漢文の素読を始め、所謂五経の孝経大学中庸論語孟子を読み終りました。おかげで中学五年の間、漢文が面白く、全く苦勞知らずで終ることが出来ました。中学二年の時、東洋史の江田先生の講義が面白く、将に講師の話を書く思いでした。折に触れ、李白、杜甫の詩を吟じ、中でも史実を詠いあげた文天祥の「正氣の歌」は参考のためプリントを貰い、それを素読で読み上げ、

殆ど暗誦してしまいました。これが郷愁となつて詩吟の道に入る遠因となつたと思います。

中学三年の時祖母の死で、大分中学に転校、国漢の大平先生は若い先生で、山登りが好きでよく連れ出されました。別府温泉の背後にそそり立つ鶴見山（一四八〇米）には日帰りで登ること10回、又その奥の由布山（一五五〇米）には由布院一泊で6回位登りました。このためか、山登りが好きになり、兵学校新入生の時には、江田島から宮島までカッター（短艇）を漕ぎ、休後恒例の彌山登山では、従来の記録22分を上廻る21分台で三位に入賞し、今でも思い出します。江田島の名山、古鷹山（約七〇〇米）には、広瀬中佐は50回登つたと聞き挑戦しましたが36回で終りになりました。兵学校では勉強はせず、運動ばかりして、おかげで成績はスッテンコロリンと落ちてしまいました。然しこれが健康体を作り上げて今日の基礎となつていてと思えます。父母から授かった丈夫な身体のおかげで、若い時の暴飲暴食にも身体を損わず、ガダルカナル攻防戦で飛行場近くのジャングルに潜入、食するに糧なく、栄養失調となり、この身体が30kgにやせ細り乍らも帰ってこられた

のもそのおかげでしょうか。

終戦後、横須賀米軍基地勤務中、先輩の安川氏から木村岳風先生の直弟子松井先生のことを聞き、松井・根岸両先生の下で詩吟を始め決心をしました。二木謙三博士が詩吟の効用について述べられた本に、次の様に書いてありました。「全身の血行を妨げるのは、頭と腹のうっ血である。物を考え悩む気が立つと血は頭に上りたまつてしまふ。無心になると血は下がり、全身の血の半分は腹部にたまる。この血液を押し出してしまふようにすると、全身の血行がよくなる。腹は第二の静脈心臓である。詩吟が健康によいのはこのためである」と。

詩吟の道にのめり込んで35年、今日の楽しみも健康も、この腹式呼吸法のおかげであるとおつくづく思います。何時の頃からかはつきりしませんが、今では日常の呼吸がすっかり腹式になり、息を吸うと空気が快く下腹部に収まってくれます。

75歳の時、声の限界を悟り、老後の楽しみの一助にと、テープにあれこれと録音しました。今では時折それを聞いて楽しみの一つにしています。すっかり無理をして声帯を痛

め、昨年根岸先生のすすめもあり、教場数を半分にして、おかげで気分的にも落着いて、声の調整に努めています。丈夫である限り吟の道に励みたいと思う今日この頃であります。

〳教えることは教わることなり〳

8月22日(木)、夏休み後半の堀内・D組夜の部のお稽古がはじまりました。のろのろ台風12号の影響で、ここ二、三日のうだるような猛烈な暑さに、心も体もなんとなくだれ気味でした。しかし熱心な皆さんが次々と見えられると、自然と気持ちが締めまりました。全員が揃うまでの時間を利用して、去る18日の防大での県本部指導者講習会の折、長谷川岳聖先生が指導された長歌「鎌倉懐古」を自分なりに朗詠、そして皆さんにも練習していただくようなことになった。

「教えることは教わることなり」…私はこの言葉をいつも心の中にとどめているが、一緒にお稽古をしているうちに、自分なりにも少しずつ自信ができてきた。诗情とまではいかないが、皆さんも意外に早く節調を身につけてくれ、とても嬉しく思いました。私はそ

こで心のままに「ありがとう。教えることは教わることなりの言葉通り、皆さんと一緒に私も勉強させていただき、とても嬉しい」とありのままに気持ちを伝えました。

後半のお稽古は、来る9月16日の審査会に受審される方達に重点をおきましたが、長い夏休みが入ったというのに、詩文もすっかり暗記できていて、その熱心さに又々びっくり、全員が思わず拍手をするという一幕もありました。

冷たい麦茶で喉をうるおせば、熱さの中にも、庭のこおろぎの声が聞こえてきて、季節は確実に動いているのを感じました。

愛岳

県本部主催指導者講習会終わる

去る8月18日に右会が行われました。今回は内容一部刷新で講師の部門変更、又県外から山梨の小俣岳先生が招かれました。参加した指導者の方々の評価は「今年はよかった」ということでした。特に小俣先生の指導法は簡潔、明瞭、そして要点をつき、加えての美声で素晴らしいと皆さん満足のようでした。色々な意味で参考になる事多々でした。

長寿の祝い

9月15日は敬老の日、この行事は昭和26年から「としよりの日」として実施されていたが、41年に「敬老の日」と改称された。

(還暦・六十歳)

その人の生まれ年(えと)が再び還ってくるという意味から。

(古稀・七十歳)

〳人生七十歳・古来稀なり〳の言葉からつけられたもの。

(喜寿・七十七歳)

喜という字をくずし書きにすると、七十七となるのでつけられたもの。

(傘寿・八十歳)

傘の略字は今と書きます。これが八十とも見えるから。

(米寿・八十八歳)

米の字を分解しますと八十八となるから。

(卒寿・九十歳)

卒のくずし字は、九と十を続け書きしたもののから。

(白寿・九十九歳)

百の字から一をとりますと白となるから。

練吟
メモ
女性会員

○碩心会員のおおむね70%は女性である。この数字は碩心会だけでなく、全国共通の傾向と見ていい。昨年度第98回全国吟道大会における合吟コンクール出場30組中女性が23組を占めていることもこれを証しており、この一事が女性会員の吟詠会に対するパワーを明確に示しているものと思う。

○二十一世紀への岳風会についてだいたい騒がれているが、これはいくら上層部で号令をかけても効果は挙げないと危惧される。第一に、国の現状、特に国際化に伴う義務教育の変遷が大きく影響して、漢詩文の教科は年をおって衰退の度を増し、現状は中学生での漢詩は三首だけ、高校では国語科の選択科目扱いとなっている。このような情勢下に詩吟の勉強を青少年に強いるのは、親として相当の信念がなくてはできないことである。

○第二に、岳風会の詩吟は、吟符を超越した声楽であるという基本姿勢である。小学生から楽譜に親しんで来た青少年にとって、「詩吟は口伝である」とか「節調にとらわれず詩

心を表現」の説明では到底納得できないと思う。それに引き換えカラオケが老いも若きもはては洋の東西を問わず諸国に流行している事実、詩吟が古いと言われ、敬遠される理由をはっきり説明しているようである。

○核家族化が全面的に進んだ現今では、子供の教育は当然ながら母親の管理下にあり、祖父母が口を差しはさむ余地は全くない。従って、会の在り方としては、母親字級を別に設け、月に一時間でも結構、漢詩等についての楽しい特訓を実施したらどうか。母親が漢詩の勉強を楽しむようになれば、自然と家庭内吟詠の時間がふえ、子供達はおのずと吟詠を身につけるようになり、漢詩に親しみを持つこととなる。子供を吟の世界に入れるかどうかは、いつにかかって母親の意志一つで決定されると言っても過言ではないと思う。

○青少年を入会させる場合、安易に成人の教場に入れるのは適当でない。青少年用教室を別に設け、特別の指導をすることとなる。結局これらを実現するためには、何よりも女性会員の理解と協力がなくては不可能である。従って、大会等には女性会員を優遇出場させ吟詠意欲高揚を図ることが切に望まれる。

短歌

風早 長島玉岳

千曲川広き河原はいにしえの

勇者駆けたる戦場なりしか

夜空つき東京タワー紅く燃え

事故無き旅の終りを謝しぬ

今日の日を何を演じる吾なるか

目覚めて鳥の声に起き出す

(入会)

625 屋比久三喜子 横須賀市緑ヶ丘十四

(吟甫) (再電) 〇四六八一二五一二五二三

626 八木下京三郎 逗子市小坪五一一一六

(逗子A) 電 〇四六七一一三二一八五四七

627 牛尾昭二 逗子市逗子二一六一三二

(真澄) 電 〇四六八一七一一三〇二二

628 小暮洋山(再) 逗子市沼間二一十一二三

(真澄) 電 〇四六八一七三一一三四一五

629 西川幸風(転) 横須賀市公郷町四一一一八

(真澄) 電 〇四六八一五一一二四九八

(退会)

92 久保田伸岳 (大船B) 135 秋吉笙風 (一色A)

249 赤池寿風 (一色A) 550 鈴木俊子 (若葉)

602 戸田美恵子 (真澄)